

令和7年度 全国学力・学習状況調査について

(本調査は、全国悉皆調査で第6学年児童生徒を対象に4月に実施されたもの)

1 学力調査に関する結果の概要

【国 語】

- 語句の意味を理解し、漢字を文の中で正しく使う技能が高まっている。
- 目的や意図に応じて、条件をもとに文章を構成しながら書く力がついている。
- 文章と図表を結び付けて考えたり、文章全体から要旨を把握したりする問題に課題がある。

【算 数】

- 小数の計算の仕方や小数の仕組みについて理解できている。
- グラフや表を適切に読み取り、必要な情報を選択する力がついている。
- 図形の意味や性質を理解し、適切に選択したり面積を求めたりする問題に課題がある。

【理科】

- 乾電池のつなぎ方について、直列つなぎに関する知識が身に付いている。
- 温度によって水の状態が変化するという知識と関連付け、適切に説明することができている。
- 顕微鏡を操作し、適切な像にするための方法を選択する問題に課題がある。

2 児童質問紙に関する結果の概要

- 学習したことを次の学習や実生活に結びつけて考えたり生かしたりしようとする意識がある。
- 疑問があったときに、自分で学び方を考え、工夫して身に付けようとする力が育っている。
- 地域や社会に対して主体的に関わろうとする意識に課題がある。

3 取組についての評価

(1) 教科に関する取組

- ① 効果があつた取組
 - ・国語科、算数科の学習始めの習熟タイムの設定（文法や計算などの基礎基本問題）
 - ・学力テストの結果をもとにした授業改善の推進（各学年での指導内容の重点化）
 - ・高学年を中心とした「みなかせ塾」での少人数学習・習熟度別学習
- ② 今後の学力向上に向けた取組
 - ・自ら課題をもつ、考えをつくる、伝える時間を位置付けた授業づくりの継続
 - ・国語科、算数科の習熟タイムの課題の内容の見直し

(2) 児童質問紙の内容に関する取組

- ① 効果があつた取組
 - ・日常生活につながる学習課題を設定した授業づくり
 - ・学習課題に対して様々な方法で調べたり学んだりできる選択可能な場の設定
- ② 今後の学力向上に向けた取組
 - ・スモールステップの学習内容を取り入れ、「できた」「分かった」を実感できる場の設定
 - ・地域や社会と関わる中で自己有用感を得ることができる機会の設定